

創立97周年記念式・記念講演会

去る6月8日(木)、母校創立97周年記念式及び記念講演会が体育館で開催され、午後2時5分より創立97周年記念式、午後2時30分より記念講演会が行われた。

講演者は昭和30年機械科卒の永田公男氏。演題は「己の人生は、自分で切り開け!」。八女工業高校卒業後八幡製鉄所に入社。働きながら九州工業大学2部に入学、その後同大学1部に編入、昭和36年に卒業されブリヂストンに入社、その後彦根工場長・鳥栖工場長を歴任され、日本プラントメンテナンス協会提唱のTPM賞(全員参加の生産保全を基本とした災害・故障・不良ゼロを目指す活動)の受賞責任者でもあった。TPM活動はトヨタ生産方式の実現に重要な活動となっている。平成8年3月同社退職。その後ISO(品質・環境等)の認証業務を英国の認証機関に所属し主任審査員として15年間従事された。その間にTPM・ISO関連の「K&Sコンサルタント事務所」も開設されている。

講演の要点は下記の9項目。

- (1)少年よ大志を抱け boys be ambitious、志を明確にして取り組み
- (2)「モノづくりに自信を持つように」「現物現場主義で取り組み」
- (3)肉体的にも精神的にも健康であれ、一人で悩むな、災害にも気を配れ
- (4)「意思疎通、コミュニケーション能力」を磨け
- (5)違った文化、生活習慣を持つ人を理解して、接触せよ
- (6)TPMとISOについて
- (7)一生のなかで、大きな変化があると思って取り組み
- (8)自分の心、気持ちの持ちようを「中庸の精神」において取り組むこと
- (9)「一隅を照らす、これも国宝なり」自分の身の回りを照らす人になれ



講演のなかで、永田氏は八女工業高校時代の話(苦学生)をしながら、志を高く明確に持ち、やる気を出して努力をすることでうまくいくと強調されました。昭和30年頃は景気が悪く、卒業しても20%程の卒業生しか進路先(就職先)が決まらず、他の方は、定職が見つからないまま送り出されるという厳しい時代だったと聞いています。目標を見失わず努力をし、自分の生活を築かれた方が多数とのことでした。

モノづくりでは、「現物現場主義」で取り組むことが大切であり、問題点や改善点も見つけやすいとのことでした。さらに健康管理の大切さやコミュニケーション能力を磨くことの重要性も指摘されました。意思の疎通がうまくいくためには、人間関係を良好に保つことが必要であり、そのためには先ずは「挨拶」が大切、そして相手の良いところを見つけ褒める勇気を持ち、相手の話をよく聞く態度も必要なこと、また、海外の人たちと交流する場合の、言葉を始め、文化や宗教の違いや過去の戦争の問題の心得など、企業のトップとして重要なポイントをご自分の体験から、数多く実例を示しながら話されました。

最後に下記のようにまとめられました。

皆さん方は、歴史ある伝統校の八女工業高校で「モノづくりの基本」を身につけています。モノづくりの基本である現物現場主義も体験し、世の中に出るわけです。現物現場で取り組むことは、誰にでもできることではありません。また部活動も行い、いろいろ相談のできる友達ももっています。これほど心強いことはありません。自信を持って勉学に励み世の中に出てください。「鬼に金棒」という言葉があります。あの強い鬼だって、必要なときは金棒を持っています。例えば、自分でコミュニケーション能力が弱いと思えば、つねにこころにとめて勉強してください。

更には、経営者を目指す方がおられたら、経営に必要なモノづくりの力量のほか、商品企画、営業、購買、財務管理、教育訓練など自分一人では、対応できないことが沢山あります。これらをどのように準備するのかをよく考えて、対応してください。「桃太郎」が鬼退治に行くときは「きじや猿や犬」を連れて出かけています。必要な人材を準備したのです。情熱だけでは成功しません。戦略を深く勉強し、準備万端整えておかなければなりません。

若い皆さんは、機会ある毎にこれまでにお話してきたものも参考に、勉強し成長してほしいのです。そのような心掛けが、山谷ある人生のなかを乗り越えることができるでしょう。努力している人はチャンスを生かすことができます。皆さん一人一人が会社で、地域社会で、自分が置かれている立場で「自分の身の回りを照らす人」になるものと期待しています。そしてそのことが、充実した人生を送ることになるものと思っています。



生徒代表者謝辞



花束贈呈



退場される永田氏